

台湾における動物供犠の民俗

— 豚を中心に —

王 海 翠

WANG Haicui

非文字資料研究センター 2019年度奨励研究採択者
神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程

【要旨】祭祀は、人類社会にとって、一般的な文化現象であり、古典的な課題である。本論で取り上げる供物は、これまで多方面にわたり研究されてきた。動物を供物とすることは、動物供犠と呼ばれる。この供物には、「殺生」という観念から罪悪感が伴ってきた。「供犠」と似た言葉には「供養」がある。供犠には動物だけでなく、人を差し出す人身供犠も歴史上ではみられた。農耕文明の発展に伴い、豚という動物への認識も変化してきた。豚に関する研究では「豚神」、「神豚」に関するものや、豚という漢字の「家」「豕」という要素に注目し、そこから豚の象徴的意味を探る研究などがある。豚の漢字の「家」「豕」に注目する研究は、「生」と「死」に関わってくるものである。一方、「豚神」に関する研究は、豚神への崇拜と恐怖を対象としている。豚に対する感情は、民族によって異なるものがある。さらに「神豚」に関する研究は、供物という視点からなされたものが多い。本論では、台湾特有の神猪比賽（神豚試合）を取り上げた。神豚試合とは巨大に太らせた豚を解体し展示するもので、その重さや姿を競い合う伝統的な祭りである。この神猪比賽（神豚試合）に関する研究は少ない。さらに、これを動物供犠という視点で行った研究や、民俗事例として扱った研究や報告はほとんどみられない。

本論では、当該地域における動物供犠という習俗の対象や、その背景を明らかにする。具体的事例として、玉元宮の中元普渡と三峡祖師の誕生日に行われた神猪比賽（神豚試合）を取り上げた。

Taiwanese Folk Tradition of Animal Sacrifice

—Focusing on Pigs—

Abstract: Festivals are a common cultural phenomenon and a classic topic of study in human societies. The religious offerings this paper discusses have been studied in numerous contexts. The practice of using animals as an offering, or animal sacrifice, is often accompanied by a sense of guilt as it involves the killing of animals.

Similar to the word “kugi,” or sacrificial ritual, is the Japanese “kuyo”, which means “making an offering.” In the past, some cultures made human sacrifices with human beings offered up as the object of sacrifice instead of animals.

With the development of agricultural civilizations, people’s perceptions of pigs underwent various changes. Some notable studies on pigs include research on pig gods or holy pigs, as well as a study that focuses on the kanji for pig, “tun” and explores the symbolic meaning of hogs through analyzing the elements comprising this kanji, namely “jia” and “zhong.” The study of the kanji for pig discusses life and death, while the research on pig gods probes how they are

worshipped and feared. People's views on pigs differ from culture to culture. Many of the holy pig studies examine pigs as a sacrificial offering.

The topic of this paper is the unique Taiwanese tradition of the Pig God competition. This is a long-standing festival in which fattened pigs are judged on their weight and appearance, and later dismembered and displayed. Few studies on the Pig God competition exist, and research focusing on the aspect of animal sacrifice or studies that regard the event as an example of folk tradition are rare.

This paper aims to shed light on the subjects and background of animal sacrifice practices in Taiwan. As a case study, the paper discusses the Pig God contests held at yuyuangong temple during Ghost Month and the contest held on the birthday of the Buddhist monk Master Qingshui.

はじめに

林衡道は、「台湾には、夥しい廟がある。民國 48 年の調査によると、登記された廟は 4,820 カ所となっている。諸神は約 240 種類ある。これを分類すると、靈魂崇拜は 190 種類で、残りは大概自然崇拜である。天公、土地公、大樹公、石頭公、玄天上帝、文昌帝君などは自然崇拜である。王爺、關公、岳飛などは大概靈魂崇拜である」(林 2015:94-95 筆者訳)と述べている。

多くの廟の中で、本論が取り上げたのは霄裡玉元宮と三峽祖師廟である。玉元宮の旧名は、三元宮である。1922(大正 11)年、三官大帝を供奉する三元宮という名前に玉皇大帝を加え、玉元宮と改名した。台湾桃園市八徳区長興路の霄裡区にある。一方、三峽長福巖清水祖師廟では、福建省泉州府安溪県の源泉である清水巖の清水祖師(いわゆる蓬萊祖師)を祀っている。この二つの廟で注目されるのは、神猪比賽(神豚試合)である。神豚試合とは巨大に太らせた豚を解体し展示するもので、その重さや姿を競い合う伝統的な祭りである。玉元宮では旧暦 7 月 15 日の中元節が、三峽長福巖清水祖師廟では旧暦 1 月 6 日の三峽祖師の誕生日が重要な日となっている。そこで、筆者はその時期に合わせて、2019 年 8 月 8～22 日、2020 年 1 月 25 日～2 月 6 日の 2 回にわたり玉元宮と三峽祖師廟を訪れ、神猪比賽(神豚試合)の調査を行った。

なお、本論における和訳は、すべて筆者が行った。また、掲載した写真もすべて筆者が撮影したものである。

I 先行研究と問題の所在

ここでは、豚に関する研究を三つに分け、それぞれの先行研究を検討する。最後に、これら研究の問題点を挙げ、問題の所在を明らかにする。

(1) 先行研究

① 台湾の中元節に関する神豚の研究

神豚の研究としては、鈴木満男「台湾漢族の祭りの特質：基隆港，中元節の場合」(鈴木 1972)が

ある。この中で鈴木は「尤も、表面には、夥しい豚の供犠とか、長々しい道士の行方・読経とか、異質の文化を感じさせる部分も、決して無いわけではない。だが、この行事の底に流れる観念、つまり無祀の死霊の信仰については、駭くばかりの一致が認められる」（鈴木 1972:151）と述べている。このほかの研究には、堀江俊一「台湾北部客家の宴」（堀江 2004）がある。堀江は「戦後になると政府の指導により、日程は一律に旧暦七月十五日と規定されてしまった。また、食生活も徐々に豊かさを増し、八十年代に入る頃には「中元の豚肉なんて、やたら太らせた脂肪ばかりのものだから、今じゃあ誰も欲しがらないよ」とまで言われるようになってしまった。こうして、中元普渡の行事と宴は現在も続いているが、「お土産の豚肉」はその意味を失い、見ることのできないものとなってしまった」（堀江 2004:73）と指摘する。

② 三峡祖師廟に関する神豚の研究

三峡長称巖祖師廟は「東方藝術殿堂」と呼ばれている。その堂の彫刻については、多くの研究がなされている。また、三峡長称巖祖師に関する研究も多い。ただし、三峡祖師の誕生日に捧げられる神豚については、あまり注目されていない。Emily M Ahern の「The Thai Ti Kong Festival」では、供物としての豚は汚いイメージを持っているが、晴れ姿で神に捧げられることによって、豚から神豚、あるいは豚公に神聖化すると述べている（Emily M Ahern 1900）。

③ 動物供犠という視点からみる神豚

動物供犠の研究には、原田信男『神と肉—日本の動物供犠』（原田 2014）がある。原田は「肉を米と対立させる国の建前とは別に、米を農作のためにこそ神に肉を供える儀礼が、この国でもずっと行われてきた。もうひとつの日本の歴史を掘り起こす」としている。

このほか、中村生雄『祭祀と供犠—日本人の自然観・動物観』（中村 2001）という研究がある。ここで中村は、日本人と動物との関わり合いについて、野生の生きものと牛馬などの家畜の間でどうしてこれほど大きく異なっているのかという問題を提起している。

(2) 問題の所在

以上、三つに研究を分けてみてきた。これらの研究では、いずれも神豚の諸相について言及はしているものの、これを中心になされた研究ではない。また、供犠の対象である動物は牛が中心で、牛に焦点が当てられている。しかし、農耕文明の発展に伴い、豚が供物として重要な動物になっていったことは間違いないことである。本論では、この豚を正面から取り上げ、動物供犠という視点から考察したい。具体的には、桃園県の玉元宮の中元普渡と三峡祖師の誕生日に行われる神猪比賽（神豚試合）を事例とした。

II 調査の概要

(1) 霄裡玉元宮

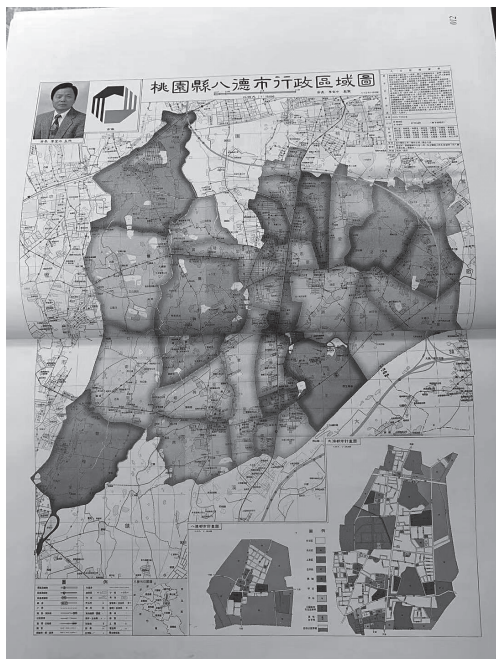


図1 桃園縣八德市行政区図



図2 道教の廟

図1は桃園縣八德市行政区図である。図2は道教の廟である。目印を付けた場所が霄裡玉元宮である。霄裡玉元宮は、桃園縣八德市の西南にある。八德区は桃園市東北部、桃園台地の東北端に位置している。東は新北市鶯歌区、西は中壢区、南は大溪区、北は桃園区、西南は平鎮区とそれぞれ接している。東西は6,760m、南北は8,460mとなっており、西側は比較的開けている。桃園市で最小面積の行政区域であり、人口は187,847人である。(2014年から桃園縣は桃園市に行政単位の名称が変わっている。同 桃園市は桃園区に変更され、八德市は八德区に変更されている。)

地形は台地となっており、地勢は東南部がやや高くなっているほかは平坦である。海拔は110mから115mであり、茄冬溪が市内南西から北に向かって流れ、南崁溪に流入している。しかし農業面では水利灌漑設備が不十分であり、市内には埤塘と称される溜池が点在しているのが特徴となっている。初期の入植者が雨水に依拠した農業からの脱却を目指し、また魚やエビの養殖を行うことを目的に築かれ、200から300年の歴史を有している。現在市内には80を超える溜池が現存している。

(2) 三峡祖师廟の概要

三峡祖师廟は、新北市三峡区にある。新北市は、台湾北部に位置する直轄市で(図3)、台湾最大の人口を有している。新北市は、台湾の首都である台北市を囲むように位置している。図4の空白部が台北市である。新北市の東北には基隆市があり、西南は桃園縣に、東南は宜蘭縣と接している(図3)。新北市には29の区があり、その中の一つである三峡区は、市の西南部に位置する(図4)。三峡区は桃園縣に接している(図3)。図5の目印を付けた場所が、三峡祖师廟である。



图3 台湾の地図

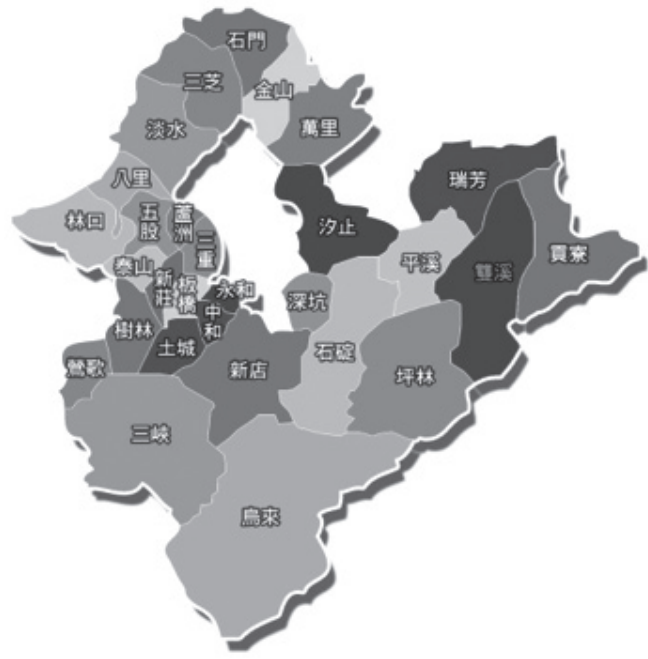


图4 新北市の地図

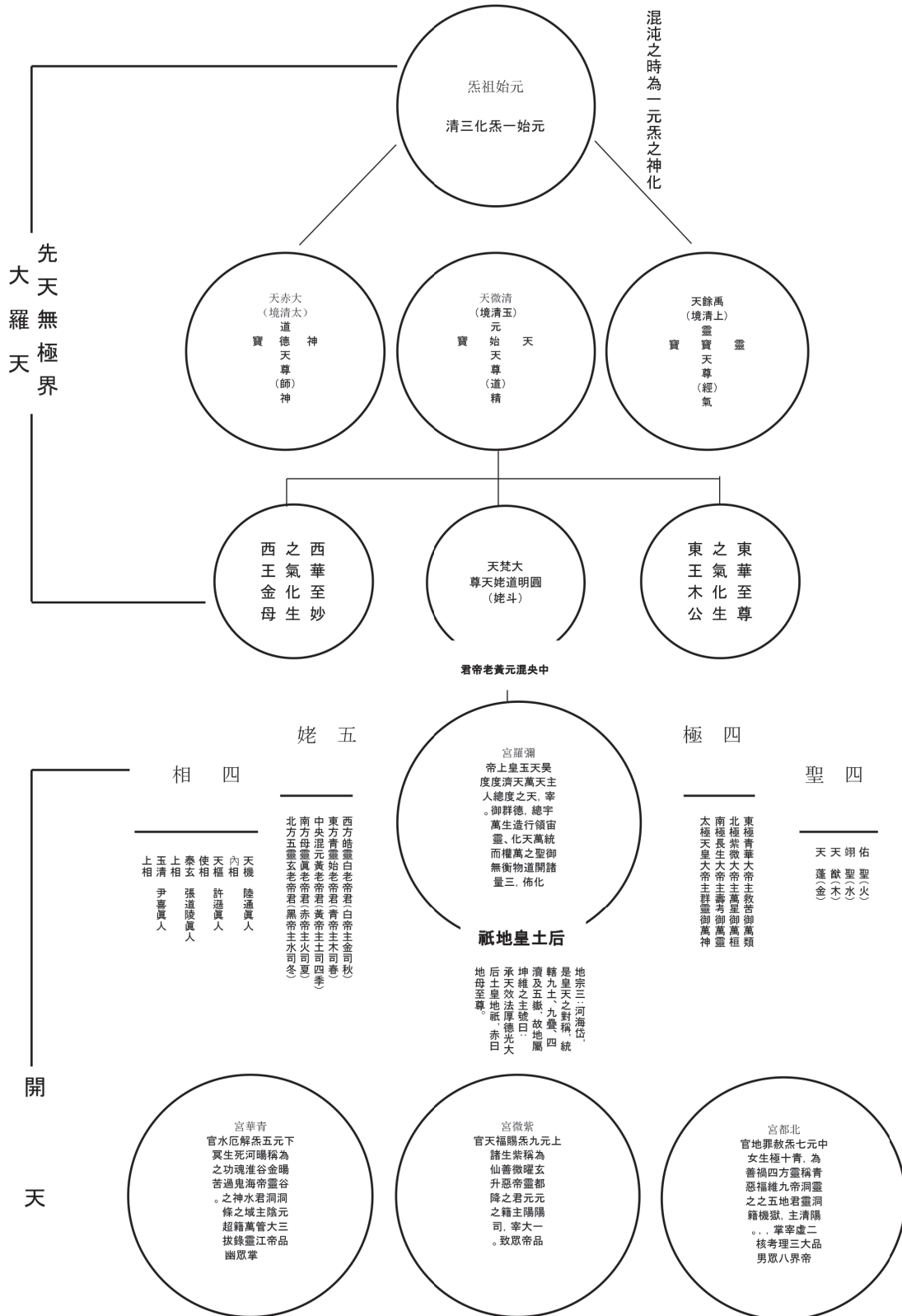


图5 三峽祖師廟

III 霄裡玉元宮における神猪比賽（神豚試合）⁽¹⁾の事例

(1) 道教諸神および八徳市の主な道教

道教の諸神の系統を図6に示した。図6から分かるように、道教の諸神の元は三つに分けられている。先天無極界大羅天、開天、太極界後天真聖である。また、八徳市の主な道教を、表1にまとめた。



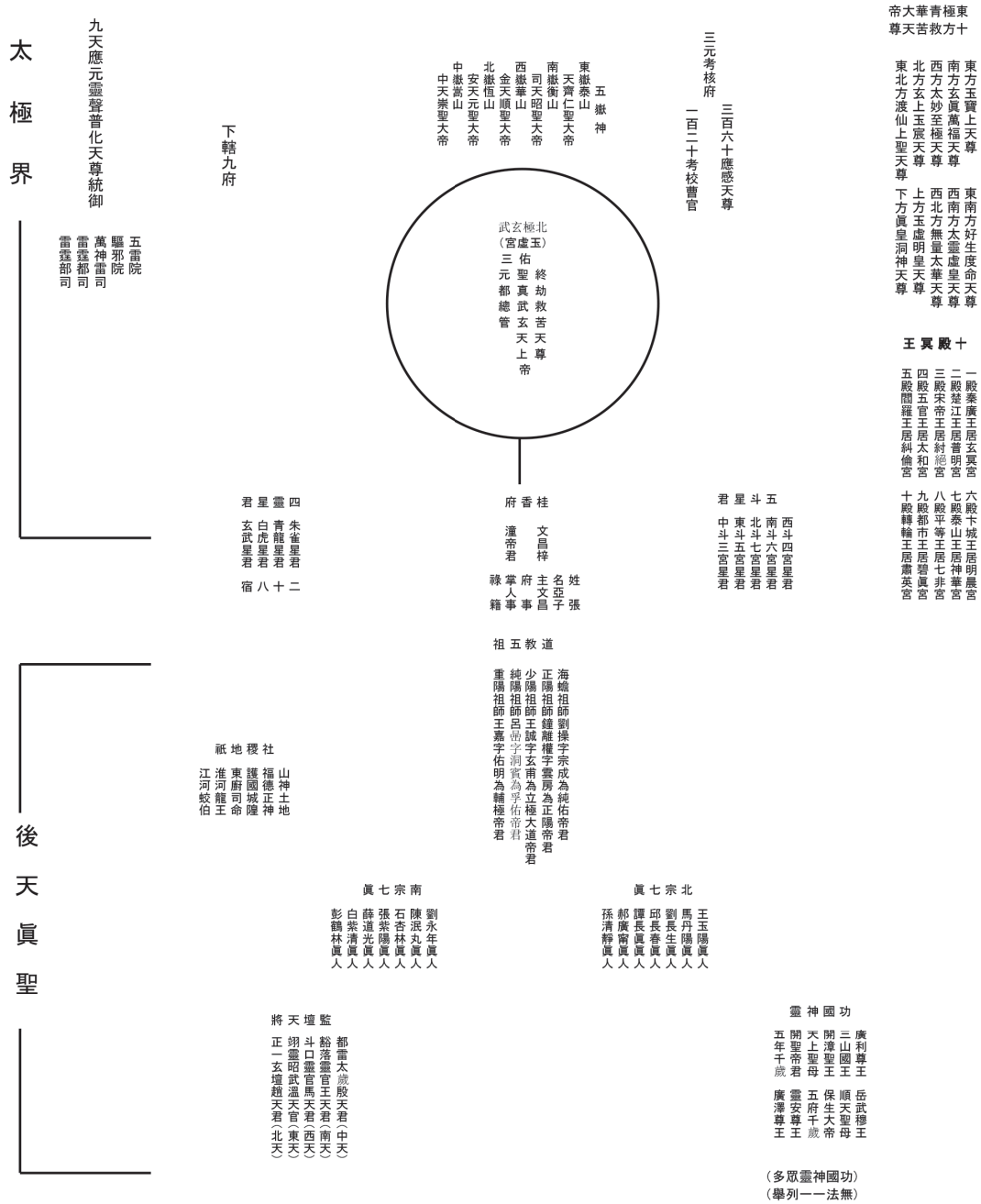


図6 道教諸神系統図

これらの廟は主祀の神仏と配祀の神仏に分けられている。主祀の神仏に、仏教の仏はみられない。これらは、その廟が道教であるからである。一方、配祀の神仏には、道教の神が多いものの、仏教の仏もいる。表1をみると仏教の2体の仏がいる。観世音菩薩と韋陀尊者である。観世音菩薩を祀る廟は指玄宮、霄裡玉元宮、元聖宮、広興福德宮である。韋陀尊者を祀る廟は霄裡玉元宮である。道教の廟に仏教の仏がいるのは、この廟の包容性にあるという。

表1 八徳市の主な道教

寺廟の名称	建廟時期 (台湾の暦)	主祀の神仏	配祀の神仏	組織	イベント (旧暦)	アドレス
指玄宮	民国 51(1962)年 に草創； 民国 53(1964)年 に増築	孚佑帝君	神農大帝、 福德正神、 三官大帝、 観音仏祖、 天上聖母、 玉皇大帝	管理委 員会制	お正月に祈安礼斗法会 (礼斗法会を祈る)； 4月14日に孚佑帝君の聖 誕を寿ぐ； 7月15日に中元普渡； 9月1日～9月9日三界に 感謝する； 12月に完斗(完斗を祈る)	八徳市大興里 17 鄰城仔 4 号
霄裡玉元宮	同治元(1862)年 に草創； 大正 4(1915)年 に建て直す； 民国 54(1965) 年に建て直す； 民国 58(1969) 年に竣工する	玉皇大帝	三官大帝、 韋陀尊者、 関聖帝君、 観世音菩薩	同上	1月9日に玉皇大帝の聖誕 を寿ぐ； 1月15日に上元節(天官 大帝の聖誕)； 7月15日に中元節(地官 大帝の聖誕)； 8月15日に中秋節； 10月15日に(水官大帝の 聖誕)	八徳市竹園里 2 鄰長興路 756 号
八徳三元宮	乾隆年間(1736 ～1795)に草創； 大正 12(1923) 年に建て直す； 大正 14(1925) 年に竣工する； 民国 54(1965) 年に建て直す	三官大帝	天上聖母	同上	1月15日に上元節(天官 大帝の聖誕)と媽祖遶境 (媽祖は遶境する)； 1月20日に 祈安礼斗(礼斗を祈る)、 安太歳(民間信仰である。 太歳が運行した位置と生肖 位置が一致すると当の生 肖、向かい合う生肖は「犯 太歳」と言い、太歳を拝み、 祈福することと厄除すること は「安太歳」と言う)、文 昌灯法会(智慧の獲得と 試験合格祈願のために行う ものである)； 2月2日に福德正神の聖誕； 3月23日に天上聖母の聖 誕； 7月15日に中元節(地官 大帝の聖誕)； 10月15日に(水官大帝の 聖誕)； 12月15日に完斗(完斗を 祈る)、太歳に感謝する、 文昌帝君法会(試験合格 のためである)	八徳市興仁里 3 鄰 中山路 2 号
元聖宮	咸豊元(1851) 年に草創； 民国 39(1950) 年に建て直す； 民国 63(1974) 年に建て直す	三官大帝	開漳聖王、 天上聖母、 福德正神、 観世音菩薩	同上	1月15日に上元節(天官 大帝の聖誕)； 2月2日に福德正神の聖誕； 3月23日に天上聖母の聖 誕； 7月15日に中元節(地官 大帝の聖誕)； 10月15日に水官大帝の聖 誕	八徳市白鷺里 14 鄰三界廟前 1 号
広興宮	民国 66(1977) 年に草創； 民国 80(1991) 年に建て直す； 民国 84(1995) 年に竣工する	清水祖師		同上	1月6日に清水祖師爺の聖 誕； 2月2日に福德正神の聖誕； 6月24日に関聖帝君の聖 誕	八徳市大仁里 4 鄰仁和街 211 巷 1 弄 18 号
聖王宮		開漳聖王		同上		八徳市大義里 18 鄰義勇街 8 号

寺廟の名称	建廟時期 (台湾の暦)	主祀の神仏	配祀の神仏	組織	イベント (旧暦)	アドレス
福興宮		天上聖母		同上		八徳市高城里高城八街 46 巷 12 之 1 号
北極安聖宮	民国 74(1985)年、桃園市建国路に建てる； 民国 87(1998)年、現地に建てる	真武大帝 (玄天上帝)		同上	3月3日	八徳市大強里東勇街 490 巷 72 号
天后宮	民国 70(1981)年に建てる	天上聖母		同上	3月23日に天上聖母の聖誕	八徳市茄苳里 33 鄰永豊路 232 巷 88 号
広興福德宮	草創時間は考証することができない； 民国 40(1951)年に建て直す； 民国 85(1996)年に建て直す	福德正神	太陽星君、 神農大帝、 観音仏祖、 天上聖母	同上	1月15日に元宵節、平安劇を演じる； 2月2日に福德正神の聖誕、 康楽隊は合いの手をいれる； 7月15日に中元普渡； 8月15日に平安劇を演じる	八徳市広興里新興路 342 巷路底
大湍福成宮		福德正神		同上		八徳市大成里 27 鄰広福路 93 巷 61 号
永興宮		財神爺		同上		八徳市大興里城仔頂 8 号之 3
万法仙宗道 教研究会						平鎮市中豊路 103 巷 24 号

出典：新修桃園縣志（526～527）

(2) 霄裡玉元宮の年中行事

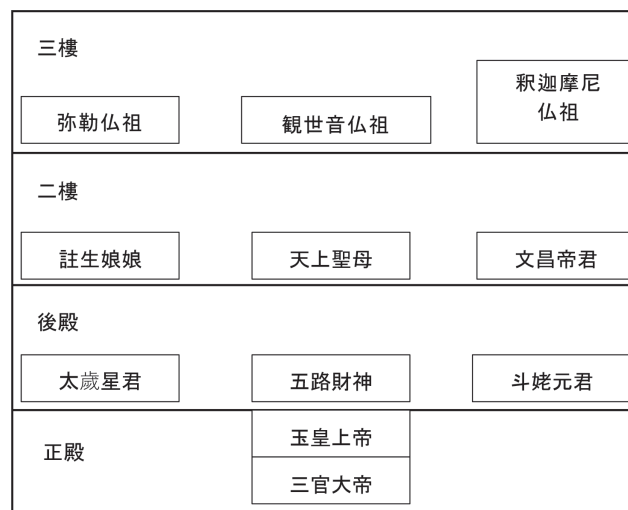


図 7 神仏様の平面図

ここには、四つの神殿がある。一階に正殿と後殿二つの神殿がある。二階と三階に一つずつ神殿がある。一階と二階は道教の神様である。三階は仏様である。主祭神としての玉皇大帝は一階の正殿に

いる。残りは配祀神である。

霄裡玉元宮の年中行事を、次の表2のように整理した。

表2 霄裡玉元宮の年中行事

時間		活動内容	備考欄	
西暦 国歴	旧暦			
民国108 (2019)年 1月14日	12月9日	戊戌年(107年)に叩謝すること 太歳光明灯一円斗	法会一円斗一平安麵 旧暦10月15日に来年の点灯を申し 込む	
2月13日	1月9日	玉皇大帝の誕生日(起斗) 箋爐主	法会一梨園公演一平安麵	
2月19日	1月15日	上天官大帝の誕生日一元宵節	祈亀活動 夜8時開始 康楽活動	
5月13日	4月9日	夏斗	法会一平安麵	
8月15日	7月15日	中元地官の誕生日一中元節	普渡大法会一梨園公演 夜(18~23時)神猪比賽(神豚試 合) 康楽活動	
9月7日	8月9日	秋斗	法会一平安麵	
9月13日	8月15日	平安歳一中秋節	梨園公演	
11月11日	10月15日	下水官大帝の誕生日一下元節	輪番区の人々は擲筊に参加する 年番正副爐主を選出する一梨園公 演	
2月5日	1月1日	宮殿の諸神・仏 様の誕生日	旧暦とする 毎月1日、15日誦経礼懺する 目的:国泰民安、信者様闔家平安 (家内安全)	
3月9日	2月3日			弥勒尊仏
3月25日	2月19日			文昌帝君
4月19日	3月15日			観音仏祖
4月24日	3月20日			五路財神
4月27日	3月23日			註生娘娘
5月12日	4月8日			媽祖娘娘
		釈迦仏祖		
毎年、天公灯、光明灯、太歳灯、斗灯、文昌灯、財神灯(財神=恵比寿)を行い、法会がある。 目的:信者のための消災解厄(厄払い)、増福添寿(幸せで長生きすること)、心想事成(渡りに船)、 闔家平安(家内安全)				

出典：玉元宮の沿革歴史誌

中秋節(旧暦8月15日)の祭祀は、年に1回である。五斗星神(旧暦12月9日)に感謝する祭祀も1回である。諸神・仏の誕生を祝う祭祀は13回ある。旧暦7月15日は中元地官の誕生日で、この日に玉元宮で行われる祭祀は、中元普渡である。次に、台湾の中元普渡の由来と祭祀の流れを述べていく。

(3) 中元普渡とは

中元普渡とは道教、儒教、仏教の概念が混合したもので、日本の「お盆」に似た行事である。中元節とは、道教の神である「三元大帝・三官大帝」つまり「上天官紫微大帝・中元地官清虚大帝・下水官洞陰大帝」の中の中元地官清虚大帝の誕生日である。「天官賜福、地官赦罪、水官解厄」といわれ、天官は福を賜り、地官は罪を許し、水官は災厄を解く。その中でも、地官大帝は亡霊の罪を許

し、苦しみから解放する。衣食に事欠かないように、人々は亡霊のため、地官大帝に乞う。三つの「鬼節」（民間の言い方）とは、清明節、中元節、寒衣節である。中元節はその「鬼節」の一つである。普渡の語は、仏教用語の中国語訳「普渡衆生（衆生をあまねく済度する）」の略で、仏教寺院で行う済度法事の名である（何彬 2003: 60-70）。⁽²⁾一方、「盂蘭盆」は梵語 ullambana に由来し、「倒懸」（逆さに吊られる）⁽³⁾の苦しみから救い出すという意味がある（鄭正浩 2007:27）。餓鬼道に落ちた母を救い出すという「目連救母」は、7月15日の「盂蘭盆節」である。これは、親のために子供が自分の力を尽くすという中国式の孝子の物語にみえる。インド仏典の中には「目連救母」という物語はない。そのため、「目連救母」が載っている「盂蘭盆経」は、中国人の手でつくられた仏典の偽経だといわれている（加地 1997:177）。⁽⁴⁾つまり、「盂蘭盆節」の教義は述べられていない。また、儒教にみられる「孝」は、道教の教義にはもちろん、仏教の教義にも本来はなかった内容である（洪偉民 2000:71-80）。⁽⁵⁾儒教の「孝」という教義は、仏教に関わる7月15日の「盂蘭盆節」と道教の「中元節」を融合させたものであろう。台湾では7月は「鬼月」である。7月1日を「開鬼門」とし、30日を「閉鬼門」とする。7月15日を「中元節」または「7月半」という。普渡は中元節の行事である。普渡の形式には「廟普」、「市仔普」、「街普」、「子弟普」、「家普」などがある。廟で行われる普渡は「廟普」と呼ばれる。廟の隣に「灯篙」がある。これは廟の前にある広場に高い竹竿を立て、竹竿の先端に灯籠と神幡をかけたもので「豎灯篙」ともいう。「豎灯篙」の役割は、各所に居る好兄弟（孤魂野鬼）たちに、ここに食べ物があると知らせることである。普渡を行う場に「普渡壇」、「孤棚」、「幢」を設置する。普渡の手順は「開楽」、「発関」、「豎幡」、「請神」、「謝三界」、「請観音」、「請孤魂」、「安灶君」、「拜幢」、「献供」、「小施」、「揚幡」と「謝壇」という13項目の順である（林再復 1996: 272）。市場を中心に行われる普渡は「市仔普」、商店街の人々を主体として行われる普渡は「街普」といわれる。また、アマチュア音楽団体を主体として行われる普渡は「子弟普」で、各戸で行われる普渡は「家普」という。

(4) 神猪比賽（神豚試合）

ここでは、中元普渡に欠かせない神猪比賽（神豚試合）という非常に賑やかな伝統行事を説明しよう。

①祭祀の流れ

この祭祀は、旧暦の7月15日に行われる。祭祀は大きく二つに分けられている。12時までの祭祀は、神と祖先を拝む祭祀である。一方、12時以降の祭祀は、好兄弟（孤魂野鬼）を拝む祭祀となる。

陳さんの家の例を紹介しよう。

朝、家の神を拝む。祖廟に行って祖先を拝む。そして、玉元宮に行き、神を拝む。午後、地基主（この土地に死んだ人々）を拝み、6時ごろ好兄弟（孤魂野鬼）を拝む。供物として果物、肉、お菓子などを供える。しかし、供物の置く場所と方向は、午前と午後で異なる。午前中の供物は、門の中に供える。神と祖先を家の中に祀り、家族を守ってくれるよう願う。これには「陽」という考え方が含まれている。一方、午後の供物は門の外に供える。地基主（この土地に死んだ人々）と好兄弟（孤魂野鬼）を祀り、家族に害が及ばないように願う。こちらの方には「陰」という考え方が含まれている。

②神豚を供える方向と称呼

供物として供えられる神豚は、廟の前に置かれる。しかし、正午を境に神豚を置く方向が変わる。午前中は、神豚の頭を廟に向ける。これは、神に捧げることを意味する。正午を過ぎると、反対に神豚の背の方を廟に向けて置く。これは、好兄弟（孤魂野鬼）に供えることを意味する。また、午前中の、神に捧げる神豚にはナイフを刺さないが、午後の好兄弟（孤魂野鬼）に供える神豚にはナイフが刺してある。

③神豚の称呼

豚は豚公、あるいは神豚と呼ばれる。豚公や神豚は、豚の尊称である。ただし、豚公の方は話し言葉で、豚に対する親しみを表している。一方、神豚は書き言葉で、豚の公的な存在を表している。まず、神豚のプレフィックス（接頭辞）である「神」を検討してみよう。中国語の「神」には、五つの解釈がある。a) 神そのもの b) 平凡ではないこと。不思議なこと。特別に珍しいこと。c) 思考力 d) 顔つきや表情 e) 利口であること（香坂 1987:1095）。供物としての神豚は、3種類に分けられると尹章義は説明する（尹章義 2006）。1番目は信仰の対象としての神聖な神の豚である。2番目は神を象徴し、あるいは予知能力を持つ霊豚である。3番目は供物となる豚である。ただし、現地では「神」に別の意味を持たせている。巨大な豚を神豚と呼ぶのである。これも豚の尊称であり、自然崇拝の思想が含まれていると考えられる。大きいということは、豚の一つの特徴である。特等獎をとる豚は、1番大きな豚である。これは、神の意味のb)に近いものであるが、さらに崇拝の気持ちが加わっている。次に、霄裡玉元宮に供えられる神豚の重量を記述する。重さは台斤で表記されている。⁽⁶⁾

姓名	總重	籠重	實重	備註
1 劉福林	1312	310	1002	
2 鄧旭東	408	77	331	
何煥喜	962	202	760	

図8 神豚の重量

等級	姓名	重量 (台斤)
特等	劉福林	1202
壹等	何煥喜	962
貳等	鄧旭東	531

図9 神豚の風袋込みの重量

神豚の風袋込みの重量は神豚の重量より200台斤多い(図8, 図9)。台斤に表示される神豚の風袋込みの重量は、国際基準の重量単位に換算され、重い順に並び替える。721.2キログラム、576キログラムと318.6キログラムである。風袋込みの重量を表示する理由は二つある。一つは養豚者の苦勞への奨励である。二つ目は見た目である。重さは神への敬意の表れなのである。

④神豚試合

神豚試合とは巨大に太らせた豚を解体・展示し、その重さや出来具合を競うものである。神豚試合

には、三つの手順がある。申し込み、秤量、飾ることである。玉元宮の神豚試合の事例をみてみよう。中元節（旧暦7月15日）の半月前に村民会を開き、神豚試合に参加する人の申し込みを受ける。旧暦7月14日の朝に監督者（玉元宮で働く人）と10～20人の壮丁と一緒に申し込んだ人の家に行き、秤量する。神豚を飾る前に屠畜する。神豚を屠畜する前に天公に報告する儀式を行い、神豚に最後のえさを食べさせて屠畜する。次に、玉元宮の神豚試合を説明する。



図10 袁家の豚舎



図11 秤量する前の豚

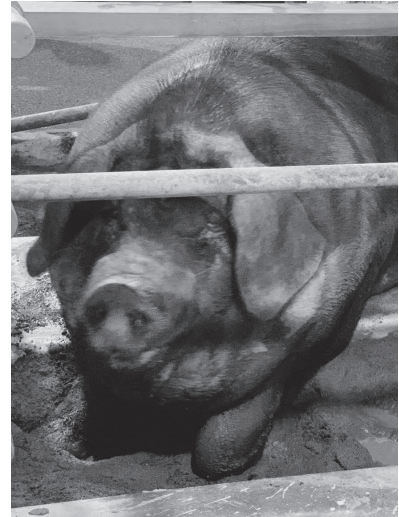


図12 劉家の豚になる



図13 豚を屠畜する前の儀礼



図14 骨を抜いた豚

2019年（民国108年）旧暦7月15日の玉元宮中元節の神豚試合に申し込んだ人は劉福林、何煥喜、鄭旭東の3人である。まず、豚は袁家の豚舎にいる（図10）。袁家は養豚を専門とする家である。養豚を商売としている。次に豚を秤量するが、図11はその前の豚である。秤量が終わると劉家に運ぶ。こうして、劉家の豚になる（図12）。劉氏は玉元宮中元節の神豚試合に申し込み、袁氏に豚の育成を依頼する。そのとき、前金を払う。秤量する前に豚が死ぬと、新しい豚と替え、残りの金額を払う。秤量する後に豚が死んだ場合は、祭祀をすることはできるが、それは買主次第である。同様に残りの金額を払う。買主が秤量した後に死んだ豚を忌み、新しい豚を買う場合も残りの金額を払い、さらに新しい豚の全額も払う。以前には、神豚試合に参加する人々は豚を自分で育てていた。ところが、10

年ほど前から、専門業者に豚の育成を依頼する人が出てきた。もちろん専門業者に依頼すれば、費用がかさんでくる。豚を屠畜する前には儀礼が行われる（図13）。劉家の神豚としてお供えする。神豚試合に参加する豚であるということを天公に報告する。豚は骨を抜かれる（図14）。そして豚を綺麗に飾る（図16）。図15は豚を載せる鉄柱である。



図15 豚を載せる鉄柱



図16 豚を飾る



図17 劇の舞台



図18 歌曲の舞台

劇の舞台（図17）と歌曲の舞台（図18）は、廟の真向かいにある。それは、神のために演じるためである。ポールダンスの舞台（図19）は、並んでいる神豚の真向かいにある。好兄弟（孤魂野鬼）のために演じるためである。廟の向かいの道路が、普渡の場所となる（図20）。普渡の供物（図21）には、線香が立っていないとなければならない。線香をあげる理由は、好兄弟（孤魂野鬼）に供物を饗するからである。普渡の洗面器（図22）や普渡の化粧用品（図23）など好兄弟（孤魂野鬼）に向ける用品は赤い。正午前の特等奨の神豚（図24）には、ナイフが刺さっていない。それは神に捧げる神豚であるからである。午後になるとその豚に、ナイフが刺さっている（図25）。それは好兄弟（孤魂野鬼）を拝む神豚であることを示している。ナイフを刺す理由には二つある。一つは、神豚を好兄弟（孤魂野鬼）で分けやすくすることである。二つ目は、祭祀の終了後、神豚の頭をとって残った部分を切り分けることである。一等奨の神豚（図26）と二等奨の神豚（図27）には、普渡の用品が供えられている。普渡する場所の平面図は図28のとおりである。



図 19 ポールダンスの舞台



図 20 普渡の場所

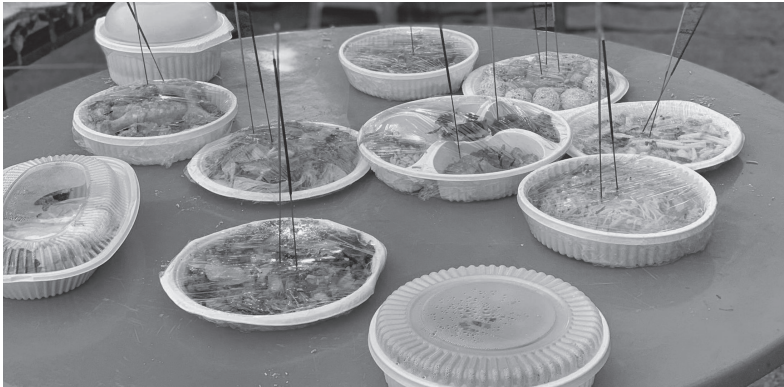


図 21 普渡の供物



図 22 普渡の洗面器



図 23 普渡の化粧用品

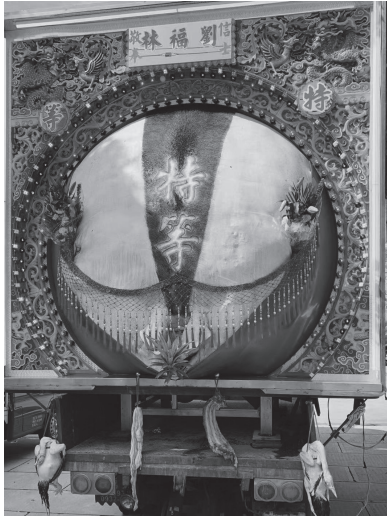


図 24 特等奨の神豚 (拜天公)



図 25 特等奨の神豚 (拜「好兄弟」)

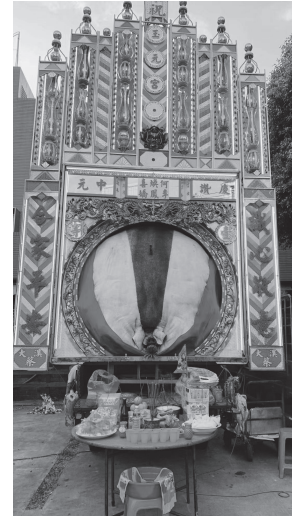


図 26 一等奨の神豚



図 27 二等奨の神豚

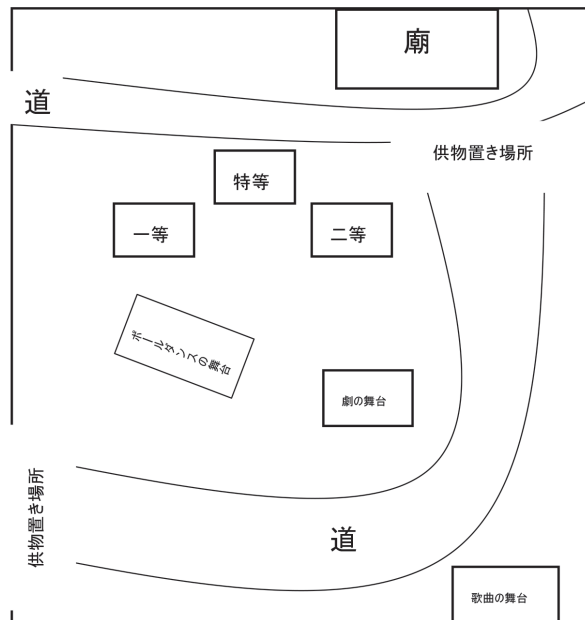


図 28 普渡する場所の平面図

IV 三峽祖師廟における神猪比賽（神豚試合）の事例

(1) 三峽祖師廟の歴史

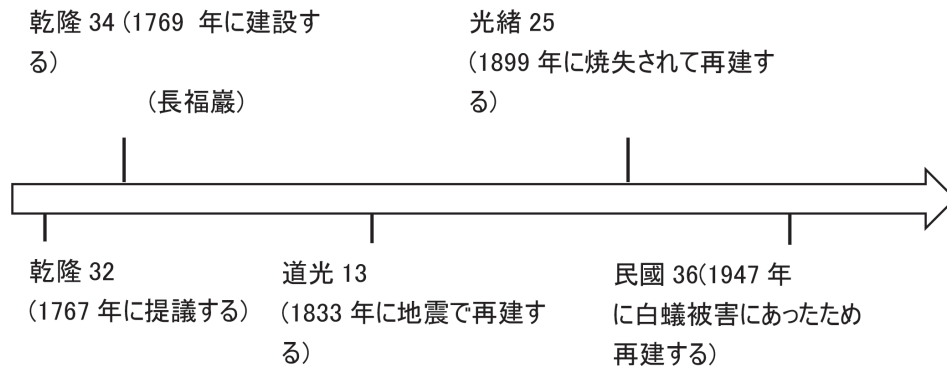


図 29 三峽祖師廟の時間軸 李楷瑞 (2006) 三峽祖師廟導覽手冊により 筆者作成

三峽祖師廟の主な歴史を、図 29 にまとめた。三峽長福巖清水祖師廟には、福建省泉州府安溪県の源泉としての清水巖の清水祖師（いわゆる蓬萊祖師）が祀られている⁽⁷⁾。乾隆 32(1767)年、三角湧、石頭溪、二甲九、中庄、鶯歌石にいる泉州人が來台して提議し、乾隆 34(1769)年に廟を建設した。その廟は長福巖といわれる。道光 13(1833)年、地震で廟は破壊されたが、再建される。しかし、光緒 21(1895)年、清朝は日本に敗戦し、馬関条約を締結する。台湾は日本に割譲された。日本軍は三角湧に侵入し、長福巖を焼失させた。光緒 25(1899)年、日本は緩和対応政策により長福巖の再建に応じた。民国 26(1937)年、中日戦争が始まる。日本軍は軍隊の資金が不足し、民国 27(1938)年に三峽街長の小林堪藏が廟の財産管理を強引に奪い取る。台湾側は、白蟻被害にあった長福巖を再建するよう要求する。しかし、廟の財産を日本人が管理していたことや、皇民化政策のため再建は先延ばしされた。民国 34(1945)年、台湾は主権を回復する。李梅樹が廟の財産を管理する。民国 35(1946)年に委員会を開き、民国 36(1947)年に廟は再建された（李楷瑞 2006:12-16）。

(2) 三峽祖師廟の性格

性格という言葉は、辞書で調べると三つの意味がある。a) その人が生まれつき持っている感情や意志などの傾向である。b) ある物事に特有の傾向や性質である。c) 『心』その人特有の行動の仕方、ならびにそれを支える心理的な特性であり、特に感情的・意志的な側面をいうことが多い（松村 1988:1308）。本論で取り上げる三峽祖師廟の性格は b) のような民俗的な意味である。ここでは、三峽祖師廟の性格を説明しよう。また、廟の間取り図、神仏の配置と神位、三峽祖師および三峽祖師廟の年中行事も記載した。

まず、廟の配置を図 30 に示した。

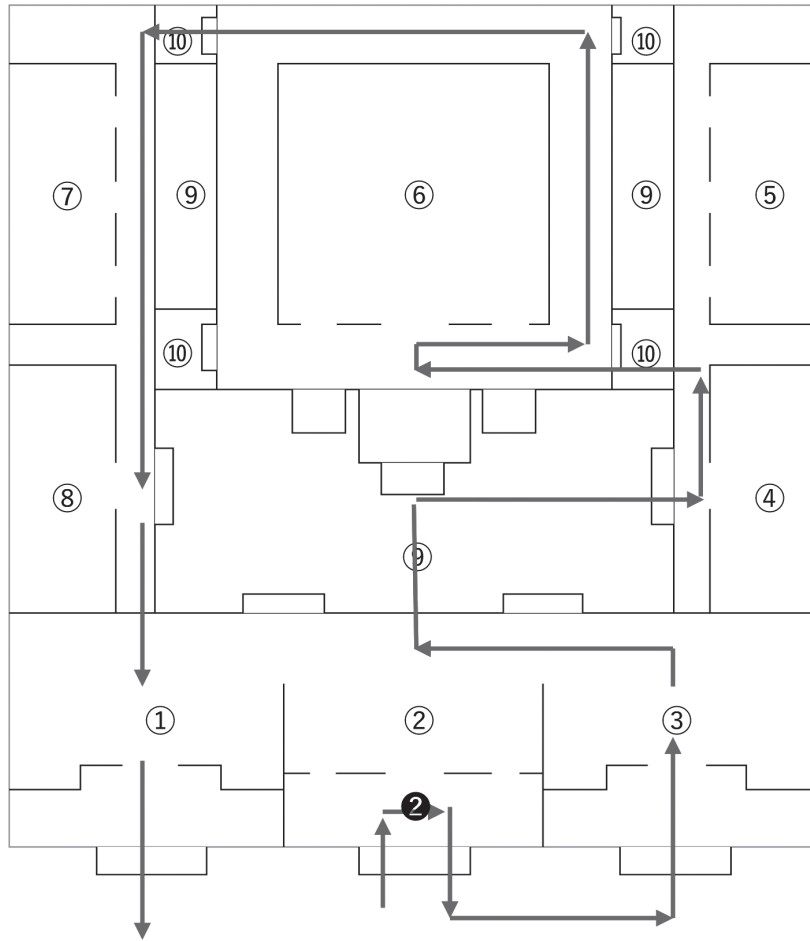


図 30 三峡祖师廟の一階平面図 李楷瑞 (2006) 三峡祖师廟導覽手冊により 筆者作成

①虎門庁 (tiger gate) ②三川門 ③龍門庁 (dragon gate) ④太陽神殿 (sun hall) ⑤東廂房 (east wing room)
⑥中殿 (main room) ⑦西廂房 (west wing room) ⑧太陰神殿 (moon hall) ⑨天井 ⑩過水亭 * 矢印は拝観する順路

次に三峡祖师廟の神仏の配置と神位を図 31 に示した。

ここには、五つの神殿と四つの香炉がある。一階に三つの神殿がある。主祭仏は清水祖师爺である。配祀神は、太陽神君および太陰娘娘である。二階には、二つの神殿がある。配祀神は文昌帝君と太歳神である。円の大きさは神仏の神位を表している。神位には三つの位階がある。高い順に 1,2,3 と番号をつけてある。次に各神殿を説明しよう。一階中央にある神殿は中殿といい、清水祖师爺を奉祀している。最も高い神位である。一階にある太陰神殿には、五体の神がいる。最も高い位階で奉祀されるのは太陰娘娘である。一階にある太陽神殿と太陰神殿は同じ間取りである。太陽神殿の中央にいるのは太陽星君である。最も高い神位である。その、左右にいる神は清水祖师爺である。太陽星君がいる側は陽面（陽）で、龍辺（龍がいる側）である。神は神居龍辺（龍がいる側）に住む。太陰神殿の隣には西廂房（図 30 ⑦）がある。西廂房には清水祖师爺が奉祀されているが、ここは午前中だけドアが開く。これは、「午前は陽である」と認識されているためである。道士は、信者に補運（運が開けるよう）しようとする。二階の太歳神には、斗姥元君が中央にいる。斗姥元君の前には庚子 (2020) 年の値年太歳は盧秘大將軍である。左右の太歳と値年太歳は合わせて 60 名いる。最も神位の高いのは斗姥元君である。次に 2 の神位を表示しているのが 60 名の太歳である。二階にある文昌殿には、文昌帝君が奉祀されている。

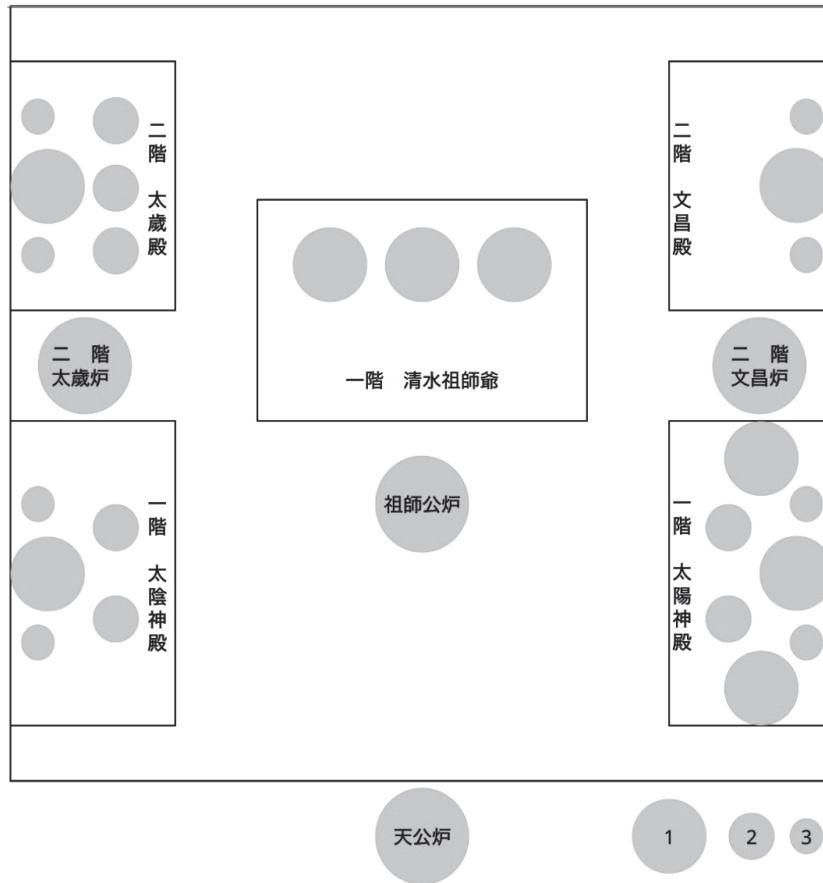


図 31 神仏の配置図

次に、香炉について説明する。入り口に天公炉、中殿の前に祖師公炉、二階に太歳炉と文昌炉の四つの香炉がある。入り口にある天公炉は、天公を奉祀するだけでなく、すべての神を奉祀している。実際には四方炉といわれる。これは、すべての神（妖魔鬼怪（魑魅）も含まれている）を畏敬しているためである。祖師廟に入る前に、ここですべての神に線香をあげ、祖師廟に入ることを知らせる。そうしないと、祖師廟を出るとき、妖魔鬼怪（魑魅）の機嫌を損なうと考えられている。次に主祭仏である清水祖師爺を説明する。

(3) 三峡祖師爺

三峡祖師爺は福建安溪県から伝わった神であるといわれている。清水祖師は、「麻章上人」とも呼ばれる。また、閩南では「烏面祖師」と呼ばれることもある。台湾の民衆の間では「祖師公」と呼ばれている。さらに、清水祖師の分身には、多くの称呼がある。「三代祖師」、「蓬萊六祖」、「顯応祖師」、「照応祖師」、「輝応祖師」、「普庵祖師」「落鼻祖師」などである。清水祖師には、さまざまな言い伝えがあるが、廟によりその内容は異なっている。ここではその言い伝えを紹介する。

①三峡長称巖祖師廟の言い伝え

祖師の本名は陳昭応である。生まれた時代は北宋で、出身地は開封である。文天祥に従い、元軍に抵抗した。そして、福建安溪の清水巖に隠居した。地元の民は、祖師公の祠堂を建設し、清水祖師公

という尊称で呼んでいる。載録にはこう記されている。

祖師本名陳昭應，北宋開封府人，曾追隨文天祥抵抗元兵，其後隱居福建安溪清水巖。當地人建祠堂崇祀，尊稱為清水祖師公。其載文：『祖師，本名昭應陳姓。河南開封人。其祖上宋廉思公，宋太祖乾德二年廣海軍稱度使加檢校太傅。征契互胡虜有功，封護國軍節度，歷封疆鎮撫布政。崇信釋氏有恆，教子孫以忠孝報國為本。迨而祖師時也，大亂，徙遷南渡臨安（杭州），投效武軍，南征北戰，功忠漢族。後率衆移閩之泉州安溪，卜居彭內清水巖，墾田訓民，啓發漢族精神，恢復失土。至天下被混，版圖易色，即改裝佛徒僧服，週遊閩越，勸化反抗異族。事敗，潛回故里，示兒輩及民衆曰：「我華夏自宋以來，多受異族侵凌鐵蹄之下，不能復國。今我老矣，你等世世宜守吾言，抱雪恥復國，以安漢族。」至明季，其子孫引衆從朱元璋滅元。明太祖立，勒封香田，重建廟宇……』，則祖師乃以聖成神也。

②龍山区祖師廟の言い伝え

清水祖師俗姓陳，名應，或曰昭應，法名普足，宋仁宗慶曆正月初六日誕生於福建永春縣小姑鄉；自幼出家，初於六雲院。其後獨自前往高泰山，修持戒律，然苦於無明師指點，終難底於成，乃走往大靜山，以明松禪師為師。從而參讀釋家經典三年之久，終於悟道，明松禪師授予衣鉢，並告誡曰：「我佛最大功德，莫如行仁，是以要捨棄萬緣，務以利物濟世為職志。」回到高泰山後，再遷往麻章，遵照明松禪師之意旨，普救貧病，凡是經祖師診治者無不奏效，麻章人士遂尊其為「上人」。此乃清水祖師又稱麻章上人之由來。

③そのほかの言い伝え

i a 祖師初至清水巖時，有惡怪在岩洞裡搗亂，祖師爺遂與其鬥法。惡怪要祖師進入岩洞，用煙火連燻七日七夜，祖師仍然活著，然全身被火燻得黑如黑炭，就此面色熏黑。惡怪佩服其功力，便聽其指揮，亦即所謂之蘇張黃李四大將軍。

b 祖師未曾出家之前因嫂嫂臨盆生產，無法炊事，請其上山砍柴。其後嫂嫂因看見火沒有柴薪依舊在燃燒，心中納悶便走近一看，卻發現祖師以兩腳伸進竈洞代薪，放在火中燃燒，嫂嫂不由得大吃一驚，想要將祖師拉起，不料祖師全身陷入火中，只見炊煙冉冉上升，而不見其身體。此乃因祖師全身進竈，從煙筒中直昇天空，因黑煙而致祖師之面孔成為黑色的。

ii 祖師為宋代人，因幼小貧困，為泉州府南安縣英塔鄉某寺廟所雇用，其主持對祖師非常刻薄，便至安溪清水巖修業，在巖下發現一個洞穴漏出米來，便將米分與眾民；後有人至清水巖，以竹木插入石穴，莫知其深。由於祖師在此修道得業，泉州人便於其處建清水祖師廟，加以奉祀。

iii 清水祖師本名陳昭應，為福建省永春州小姑鄉人，自幼即至六雲寺出家為僧，後得道，法名普足，明朝萬曆年間，安溪，永春一帶大旱，農田遭殃，祖師乃祈神求雨，並以杖擊地，遂獲甘霖，靈驗顯著，因之被稱為清水祖師。

iv 祖師時常指著閩山而對信徒說：「那裡真是佛家之鄉，幾十年後，我要在那裡現身。」祖師之預言在其圓寂之後實現；紹興四年七月初十，雷火燒著閩山，徹夜通明，熄後附近民衆，攀登險崖前去察看，到了一處人跡罕至的石門之前，供奉著祖師的神像。衆人看了認為是祖師現身，即在石門前興建廟宇，加以奉祀。

v 祖師曾經作過屠夫，一日媽祖顯身，托他洗滌污穢之物，祖師拒絕了。然他忽見穢物變成青色神旗，

驚問緣由。媽祖乃對他説：「你想成神嗎？」祖師點頭了，媽祖問他是否願意放棄屠殺之業。祖師自感慚愧，立即以行動表示自願，遂用屠刀剖開腹部，取出胃腸，清洗乾淨，然後再行納入腹中。媽祖就此點化他而後成神。後世之人乃崇拜祖師為清白之神。

vi 相傳每逢天災地變，祖師爺的鼻子會先掉落以示警告，因此又被尊稱為「落鼻祖師」。

上記の資料では、清水祖師に関する言い伝えということが述べられている。廟によりその内容は異なっているが、共通しているのは仏教に関する記述である。再度、これらをまとめてみよう。まず、三峽長称巖祖師廟における言い伝えは、こうである。崇信釈氏有恒（是非仏教を信仰とする）と教えらるる祖師公の子孫が将士を率いて朱元璋と一緒に元朝を覆した。明の時代が始まると、土地（香田）を与えて祠堂を建設している。祖師は聖人から神になっている。次に、龍山区祖師廟における言い伝えである。祖師公は幼児のとき六雲院に出家する。明松禅師に弟子入りする。悟りを開いた後、明松禅師の衣鉢を継ぐ。祖師公は「我が仏最大の功德は仁を施行することである。万の縁を捨てて利物を志向として済世する」と述べ、明松禅師の意志を継ぎ、貧しい人や病人を救済する。麻章で治療された人々は、祖師に感謝し、「上人」と尊称した。こうして清水祖師は、麻章上人と呼ばれるようになった。この二つの言い伝えの共通点は、祖師公の本名が陳昭応である点にある。相違点は、生まれた場所と生涯の経緯である。いずれにしても、仏教に関わることである。そのほか、六つの言い伝えがある。i の a と b は、「烏面祖師」の由来である。その i ~ iv の四つは、祖師公に関する記述で、出家し悟りを開いたということが語られている。残りの二つには、そうした記述はない。v には、媽祖から転化され、祖師は神様になっている。vi には、天災地変があると祖師爺の鼻が落ちる。災難の前兆と認識され、「落鼻祖師」と呼ばれている。三峽長称巖祖師廟においては、祖師公が仏教徒であったと認識されている。

(4) 三峽祖師廟の年中行事

三峽祖師廟の年中行事を、次の表3のように整理した。

(8)
表3 三峽祖師廟の年中行事

時期（旧暦）	イベント
1月5日 23時	三峽祖師誕生日の祭典および三献礼（供物を三峽祖師に捧げる）
1月6日	三峽祖師誕生日の祭典および神猪比賽（神豚試合）
1月9日	安奉太歳祈福（「安太歳」福を祈る）
1月13日	祈安植福礼斗法会（福を植える）
2月3日	安奉文昌祈福科儀（「安文昌帝君」（学問や科学の神））
5月6日	清水祖師成道 誼子女換串科儀
7月14日～15日	慶讚中元，放水灯遊行及普渡祭典科儀（7月15日に中元節）
8月14日～18日	恭迎保儀大夫尊王科儀（保儀大夫尊王を迎える）
10月9日～15日	祈安植福礼斗法会（福を植える）
12月24日	叩謝文昌，太歳科儀（文昌帝君と太歳に感謝すること）
12月大晦日	焼頭爐香科儀（新年初めに焼香する）

12月大晦日に、新年初めの焼香をする。1月9日に、「安太歳」（福を祈る）を、1月13日には祈

安植福礼斗法会（福を植える）をそれぞれ行う。2月3日には「安文昌帝君」（学問や科挙の神）に祈る。5月6日は清水祖師が成道した日で「子女換申科儀」（子女が無事に成人式まで成長することを願う）が行われている。旧暦7月15日には、中元節の祭祀を行う。8月14～18日に保儀大夫尊王を迎える祭祀を行う。10月9～15日に祈安植福礼斗法会（福を植える）を行う。12月24日に叩謝文昌、太歳科儀が行われる。祖師公に関する祭祀は、年3回行われる。三峽祖師廟で旧暦1月6日に行われる祭祀は、三峽祖師の誕生日である。これらの三峽祖師廟の年中行事は、道教の儀式であると考えられている。次に、旧暦1月6日に行われる祭祀の中の、神猪比賽（神豚試合）について説明していく。

(5) 三峽祖師廟の神猪比賽（神豚試合）

神猪比賽（神豚試合）には三つの手順がある。申し込み、秤量、飾ることである。三峽祖師廟の神猪比賽（神豚試合）をみてみよう。旧暦12月1日、神猪比賽（神豚試合）の参加を、三峽祖師廟に申し込む。12月11日、神猪比賽（神豚試合）に関する打ち合わせ会議が行われる。12月17、18日の2日間で豚の秤量を行う。旧暦1月5日午前10時に授賞式が始まり、10時45分に授賞式が終わる。入賞した人々は、各自の家に帰る。そこで、祖師公と天公に線香をあげ、手伝ってくれた人たちにご馳走を振る舞う。午後、神豚を屠畜する前に天公に報告する儀式を行う。神豚に最後のえさを食べさせ屠畜する。次に、旧暦1月5日に行われる三峽祖師の神猪比賽（神豚試合）の準備を説明する。特等獎を得た神豚を例とする。



図 32 授賞式を行う



図 33 家に帰る



図 34 祖師公に報告する



図 35 天公に報告する



図 36 天公に報告する（屠畜業者）



図 37 人々に供宴する（屠畜業者）

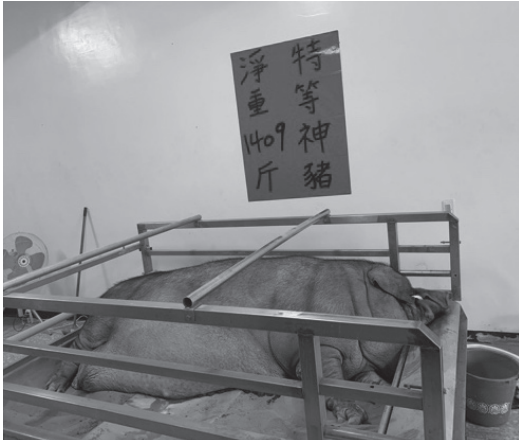


図 38 屠畜する前の神豚



図 39 最後のえさを与える

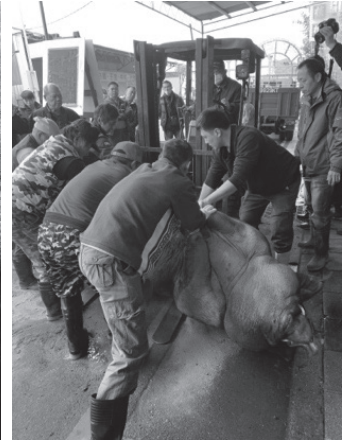


図 40 死に直面する



図 41 神豚の血



図 42 作業を行う



図 43 お酒と塩をまく



図 44 神豚を鉄柱に載せる作業



図 45 俵に入れられる神豚



図 46 鶏と鴨を屠鳥する



図 47 鶏と鴨の血



図 48 調理する

まず、授賞式が始まる (図 32)。授賞式が終わると、家に帰る (図 33)。交差点がある場所で爆竹を鳴らしてから通る。家まで遠い場合は、途中で車に乗り、先頭の車に乗っている人が爆竹を鳴らす。家の近くまで来ると車から降り、先頭の人歩きながら爆竹を鳴らして通る。家に着くと、祖師公に報告する (図 34)。また、天公に報告する (図 35)。屠殺業者は天公に報告する (図 36)。報告する順は、まず祖師公に報告し、次に天公に報告する。室内に鎮座している祖師公に向かって線香をあげ、儀式を行う (図 35)。次に、室外にいる天公に向いて線香をあげ、儀式を行う (図 36)。この場合、室内に鎮座している祖師公には、背を向けることになる。屠畜業者は、祖師公に報告してから天公に報告する。報告する方向は、入賞した人と一緒である。入賞した人は、手伝ってくれた人たちをもてなす (図 37)。図 38 は屠畜する前の神豚である。入賞した人は、神豚に別れのえさを与える (図 39)。神豚は死に直面する (図 40)。屠畜された神豚は、血を流す (図 41)。飾る前に、ある作業を行う (図 42)。骨と脂肪を抜いた神豚に酒と塩をまく (図 43)。神豚は鉄柱に載せられる (図 44)。そして、神豚は俵に入れられる (図 45)。この後、神豚を飾る作業が行われる。鶏と鴨は屠鳥される (図 46)。そして、神豚と一緒に供物になる。鶏と鴨も血を流す (図 47)。神豚や鶏、鴨の血がついている紙銭については、翌朝、祖師廟に行き、報告する。神豚からとれた肉を調理する (図 48)。

以上が (旧暦)1月 5 日に行われる三峡祖師の神猪比賽 (神豚試合) の準備である。次に、旧暦 1 月 6 日に行われる三峡祖師の神猪比賽 (神豚試合) 当日について説明する。祖師公の誕生日である。

財団法人新北市三峡長福農清水祖師公			
第四股 林姓神猪比賽入等芳名錄			
等位	姓名	重要台斤	住址
特等	林今善	一四〇元	新莊區橋南路四號 陸榮隆元
壹等	林財龍	一三四元	新莊區橋南路四號 陸榮隆元
貳等	林金結	一三五元	新莊區橋南路四號 陸榮隆元
參等	林義中	一三二四	新莊區橋南路四號 陸榮隆元
肆等	林財龍	一三三三	新莊區橋南路四號 陸榮隆元
伍等	林龍眼	一三八四	新莊區橋南路四號 陸榮隆元
陸等	林和印	一〇一九	新莊區橋南路四號 陸榮隆元

図 49 受賞者



図 50 正副爐主

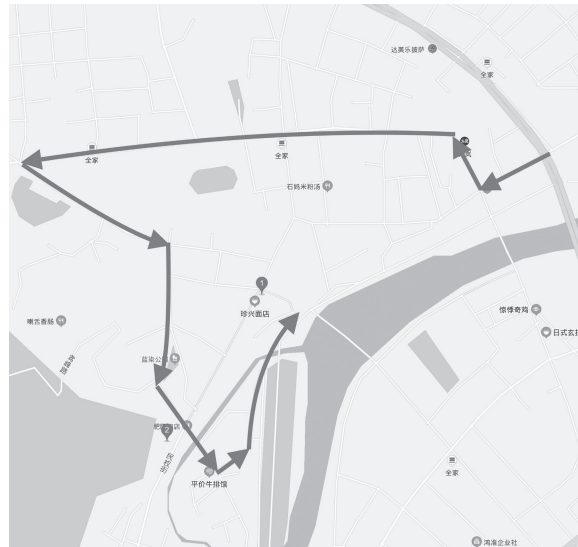


図 51 遶境の路線



図 52 爐主の神豚



図 53 特等の神豚



図 54 農協の神豚

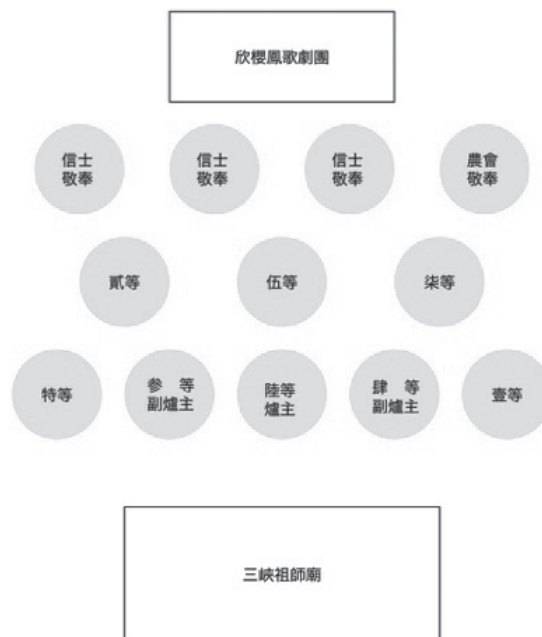


図 55 神豚のランキング



図 56 交願儀式



図 57 神豚の毛



図 58 神豚を販売する



図 59 神豚を販売する



図 60 神豚を販売する



図 61 完売する神豚



図 62 素食の供物



図 63 陳家の供物



図 64 神豚

2020(民国 109) 年の受賞者は 8 人である (図 49) 。正爐主 (図 50) は 1 人で、副爐主は 7 人いる。遶境 (廟を巡って遊行すること) の路線を、図 51 の太い線で示した。遶境の順番は、正爐主の神豚、副爐主の神豚、特等神豚の順に行く。旧曆 1 月 6 日 8 時、三峡復興路民生の交差点に集合して遊行する。9 時に三峡祖师廟の広場に立ち入る。遶境は、まず爐主の神豚 (図 52) の所に行く。最後は、特等の神豚 (図 53) に行く。そのほか農協の神豚 (図 54) の紙豚がある。神豚のランキングを図 55

に示した。廟の外に置かれる神豚の位置は、正爐主の神豚を中央に置く。そして、副爐主の神豚を両側に置く。左側から大きな神豚を置き、順に特等の神豚を並べる。午後2時に、道士は交願（願望がかなったことを神に報告する）の儀式（図56）を行う。交願の儀式を行ってから、神豚の毛を信者たちに配る（図57）。神豚の毛をもらうことは好運をもらうことを意味する。もらった神豚の毛は、赤い袋に入れて保管する。神豚は販売される（図58～61）。特等の神豚も販売される（図58）。売上金は学校に寄付される（図59）。この神豚を受賞した林金結氏は、新北市の議員である。神豚は斤と枚を単位にして販売される（図60）。特等の神豚、正爐主の神豚の順に値段がつけられている。神豚は完売となった（図61）。残った神豚を、各戸に持ち帰る。

以上が、廟の外で行われる神猪比賽（神豚試合）である。次に、供物について説明しよう。左側には素食（菜食）の供物（図62）が、中央には陳家の供物（図63）がある。順に供物を神に捧げる。神豚の様子は図64のようである。毎年、正爐主と副爐主たちは神豚を買い、神に捧げる。そして、正爐主や副爐主、神猪比賽（神豚試合）に参加する人々が、輪番制で行う。写真の順は、神猪比賽（神豚試合）の流れの順になっている。

神猪比賽（神豚試合）は、この祭礼の本来の目的ではない。三峡祖師廟に拜拜（三峡祖師廟に拝むこと）することが、三峡と鶯歌の人々の目的である。拝する人数が多いため、7股（7組）に分けられている。それでも、神豚を捧げる前後には、問題が発生する。公平に捧げるようにと神豚の重さで決める提案がなされている。2020年には、神豚が減ったため奨励制度を設けた。これは、動物保護主義からの反対がなくても、神猪比賽（神豚試合）が衰えているように見える。神豚を飾ることは、見栄の文化のように思われる。しかし、美の神聖化とも考えられている。神豚の晴れ姿を捧げることは、神に敬意を払うことである。

以上、三峡祖師廟について廟の間取り、神仏の神位、三峡祖師および三峡祖師廟の年中行事、また祖師に関する言い伝えを説明してきた。特に、主祭仏である清水祖師爺、年中行事、清水祖師爺の誕生日について詳しく述べた。それは、三峡祖師廟の性格が、年中行事である三峡祖師廟の神猪比賽（神豚試合）に関わっているからである。祖師公は仏教徒であると推測される。そして、三峡長称巖祖師廟では、祖師公は仏教徒であると認識されている。では、三峡祖師廟は、仏教の廟であるといえるだろうか。また、仏教徒である三峡祖師公の誕生日に、神猪比賽（神豚試合）が行われるのは筋が通っていることだろうか。こうした疑問に答えるには、三峡祖師廟の性格を解明しなければならない。

三峡祖師廟の性格

三峡祖師廟の性格を、仏教あるいは道教の問題から取り上げてみよう。廟に関する性格には二つの言い方がある。主祭神の性格は廟の性格である。あるいは廟の年中行事に関わっている。主祭神の性格は、廟の性格からすると仏教徒であると認識されている。しかし、三峡祖師廟の年中行事は、道教の行事であることを示している。すると三峡祖師廟の性格は、道教的であることになる。そこに相反する性格があるように見える。聞き取り調査によると、三峡祖師廟の性格は道教で、三峡祖師公は仏教徒であるという。こうした矛盾が起きる原因は、どこにあるのだろうか。それは、信仰の問題と廟の収入に関わっている。信仰の面でいうと、仏教は外来の教派で、道教は土着の教派である。「日據時代」（日本統治時代の台湾）には、仏を拝むことができた。しかし、道教の神を拝むことはできなかつ

た。そのため、台湾人は、同じ廟の中で仏を前に置き、道教の神は後ろに隠して一緒に拝むことにした。現在では、仏と同郷の神をともに拝んでいる。三峽祖師廟も同じである。台湾では、多くの廟で、仏と道教の神と一緒に奉祀している。次に収入の面からみてみよう。道教の神は、数え切れないほど多くいる。道教の神は、現世にいる人間のさまざまな悩みを解決してくれる神である。そのため、その対象となる範囲は広いといえる。これが、三峽祖師廟の性格が、道教である理由となっている。

次に、三峽祖師公が仏教徒であると認識されているために、その誕生日に神猪比賽（神豚試合）が行われるという理由を説明しよう。

三峽祖師公に関する多くの言い伝えから、祖師公は仏教徒であると推測される。また、三峽長称巖祖師廟では、祖師公は仏教徒であると認識されている。ところが、地方誌には次のような記載がある。

崇信釈氏有恒（是非仏教を信仰とする）と教えられる祖師公の子孫が将士を率いて朱元璋と一緒に元朝を覆した。明の時代が始まると、土地（香田）を与えて祠堂を建設している。祖師は聖人から神になっている。

つまり、祖師は、生前は仏教徒で、将軍であった。三峽祖師公の誕生日に行われる神猪比賽（神豚試合）は、山霊を奉祀するものである。福建安溪県から台湾三峽を開墾するために渡った人々は、山霊を奉祀し、安全を祈願した。正月には山霊を奉祀する行事が行われている。正月の前、台湾三峽を開墾した人々は安溪県に戻り、祖先を拝むこともある。台風に遭い、台湾に戻らないこともある。正月の三峽祖師公の誕生日にかけて奉祀するのである。廟外で行う神猪比賽（神豚試合）は、元来、三峽祖師公の誕生日とは無関係であった。ただ、廟の中では豚が捧げられ、祖師の生前は仏教徒で、将軍であると認識されている。三峽祖師公自身は、仏教徒であるから肉は食べない。しかし、将軍である三峽祖師公には、部下がいる。捧げられている豚は、その兵士のために用意されたものである。

おわりに

以上のように、玉元宮の中元普渡と三峽祖師の誕生日に行われた神猪比賽（神豚試合）の事例を取り上げた。玉元宮の中元普渡という概念は道教、儒教、仏教が融合したものであることを明らかにした。神豚を、午前中は祖先に捧げ、午後は好兄弟（孤魂野鬼）に供える。三峽祖師公の誕生日に行われる神猪比賽（神豚試合）は、元来、山霊を奉祀するものであった。つまり、神猪は三峽祖師公に捧げるものではなく、山霊に供えるものであった。

最後に、神猪比賽（神豚試合）を、祭祀と比賽（競技）という二つの面からみてみよう。まず、祭祀は人、供物、神の関係である。この関係について以下の図 65 のように示す。

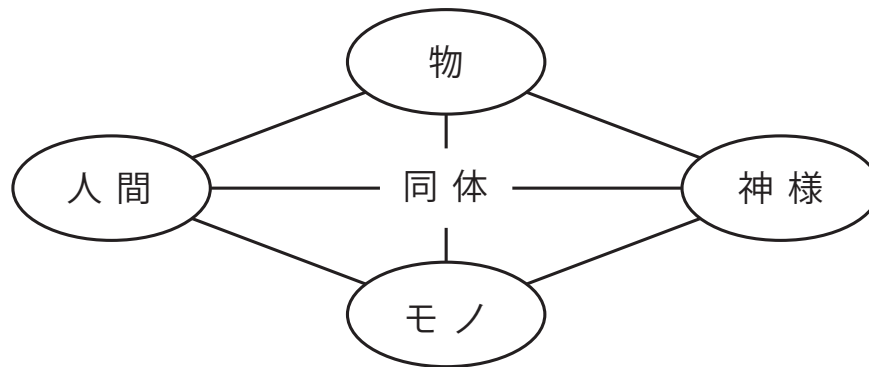


図 65 祭祀における人、供物、神の関係図

祭祀における神豚は「供物」で、屠畜されたものである。神豚は人にとっては「物」で、神にとっては「モノ」（非物質）となる。人と神の関係は多様である。恐怖⇒感謝⇒罪共有⇒信仰の順に変化してきたと考えられている。恐怖の段階では、邪神を追い払うため、供物を捧げる。感謝の段階では、守ってくれる神に供物を奉祀する。罪共有の段階では、共食を行う。人は「物」をいただき、神は「モノ」を召し上がる。時代を経るにつれ、人の犠牲は動物に、動物は植物に代えられていった。それは自然な変化である。信仰の段階では、供物における変化は植物が「モノ」に代えられているのではないか。以上、人、供物、神の関係をみてきた。人は神豚を崇拜し恐怖を持っている。民族により、その感情は異なっている。農耕文明が発展するにつれ、豚という動物への認識は変化してきた。「豚」という漢字に含まれる「家」と「豕」には豚の象徴的意味が表されている。これは「生」と「死」に関わっているのである。この点については、本論ではあまり言及できなかった。こうした視点から神猪比賽（神豚試合）をみると、新しい動物供犠の位置づけがされるものと思われる。現在、動物保護の観点から、プラスチックでできた豚と素食神豚が生み出されてきた。こうした点を今後の課題とし、動物供犠の意味を新たに考えてみたい。

註

- (1) 神猪比賽（神豚試合）は廟の年中行事で、豚の重さを競うコンテストである。
- (2) 何彬 2003: 60-70
- (3) 鄭正浩 2007:27
- (4) 加地伸行 1997:177『儒教とは何か』
- (5) 洪偉民 2001:71-80
- (6) 「斤」、「公斤」、「台斤」、「KG」、「M」、「MG」という国際基準の中国語表記と発音を説明する。そして、台湾で重さを計量する際の単位と、中国で重さを計量する際の単位および単位換算を説明する。また、日本で重さを計量する単位と比べてみる。まず、重さの単位である。一般に、1斤を160匁（もんめ）とし、尺貫法では1斤=160匁=600グラムとされる。このほか、時代・対象品目の違いにより伝統的に行われた標準を異とするものに、大和目（180匁）・大目（200匁）・白目（230匁）・山目（250匁）がある。また舶来品に対するものは1斤を英国の1ポンド（453.6グラム）にほぼ等しい120匁とした。次に、食パンの単位である。350～400グラムの一塊を1斤とする。
国際基準の重量単位の中国語表記と発音
kg：公斤（gōngjīn）

g : 公克 (gōngkè)

mg : 毫克 (háokè)

台湾で重さを軽量するときを使う単位と単位換算

1 斤 = 1 台斤 = 600g = 0.6kg

1 公斤 = 1000g = 1kg

中国で重さを軽量するときを使う単位と単位換算

1 斤 = 500g = 0.5kg

1 公斤 = 1000g = 1kg = 2 斤

(7) 三峡祖师爺は福建安溪県から伝わった神様

(8) 三峡祖师廟のホームページ参考 :<http://www.longfuyan.org.tw>

中国語の参考文献 (アルファベット順)

臺灣省文獻委員會採集組 民國 86 (1997)『台北縣鄉土史料 (上冊、下冊)』臺灣省文獻委員會

林再復 民國 85 (1996)『台灣開發史』廣懋圖書股份有限公司

李楷瑞 2006『三峡祖师廟導覽手冊』國家圖書館出版

林衡道 2015『台灣歷史民俗』黎明文化事業股份有限公司

賴澤涵 民國 99 (2010)『新修桃園縣志 (宗教禮俗志)』桃園縣政府

何彬 2003「訪れる靈魂—中元節・お盆の主役たち—」『アジア遊学 58』勉誠出版

洪偉民 2001「中元節・盂蘭盆会における「孝」について—中国江南地区の事例を通して—」『人間文化学研究集録 10』

鄭正浩 2007「華人社会における中元盂蘭盆行事についての比較考察—台湾基隆中元祭とシンガポール九鯉洞逢甲大普渡を事例として—」『紀要』ノートルダム清心女子大学 Vol.31 No.1(通巻第 42 号)

鄭政誠 民國 103 (2014)『桃園市志 (上冊、下冊)』桃園市公所

尹章義 2006『動物保護:「神豬」考釋:肥豬變神仙的故事』財團法人豐年社

王明義 民國 82 (1993)『三峡鎮鎮誌』三峡鎮公所

日本語の参考文献

赤坂憲雄 1992『供犠の深層へ』新曜社

加地伸行 1997『儒教とは何か』中央公論新社

香坂順一編著 1982『現代中国語辞典』光生館

鈴木満男 1972「台湾漢族の祭りの特質:基隆港,中元節の場合」第 25 回日本人類学会日本民族学会連合大会 発表抄録『民族学研究』37 卷 2 号

中村生雄 2001『祭祀と供犠—日本人の自然観・動物観』法藏館

原田信男 2014『神と肉—日本の動物供儀』平凡社

堀江俊一 2004「台湾北部客家の宴—中元普渡のふたつの宴」『アジア遊学 61 世界の宴会』勉誠出版

松村明編 1988『大辞林』三省堂

英語の参考文献

Emily M Ahern 1900「The Thai Ti Kong Festival」Stanford University Press